

会 議 名	令和7年度第4回小金井市立はけの森美術館運営協議会		
事 務 局	市民部 コミュニティ文化課（はけの森美術館）		
開 催 日 時	令和8年2月17日（火）18時30分～19時30分		
開 催 場 所	市立はけの森美術館 多目的講義室		
出 席 委 員	鉄矢悦朗会長 山村仁志委員 原田隆司委員 畑島一代委員 平田勇治委員 中川法子委員		
欠 席 委 員	なし		
事 務 局 員	コミュニティ文化課文化推進係 津端 佐原 同 はけの森美術館学芸員 中村 同 はけの森美術館学芸アシスタント 永井 同 はけの森美術館学芸顧問 河合		
傍 聴 の 可 否	可		
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由	—	傍聴者数	0人
会 議 次 第	（1）事業報告等 （2）意見交換 （3）その他、次回日程調整等		
会 議 要 旨	別紙のとおり		
提 出 資 料	資料1 開催中の展覧会・教育普及事業等 資料2 日程表		

【鉄矢会長】 皆様、こんにちは。本日は御多忙の中お集まりいただき、誠にありがとうございます。

ただいまより、令和7年度第4回小金井市立はけの森美術館運営協議会を開会いたします。

最初に、資料の確認を事務局よりお願いします。

【事務局】 事務局です。まず次第と、資料のホチキス留めのものが1つ、資料の2の横書きのものが1点、以上になります。大丈夫でしょうか。

ありがとうございます。

【鉄矢会長】 それでは、次第の1、事業実施報告等について、事務局から説明をお願いします。

【中村学芸員】 こちらの事業実施報告ですけれども、まず、学芸員中村より、1の「開催した、開催中の展覧会・教育普及事業等（報告）」のほうの、開催した特別展のほうから報告させていただきます。

こちらの開催した特別展ですけれども、「中村研一生誕130周年記念特別展 中村研一とモダニズム」の二期に当たります「モダニズム、変容」、こちらが既に昨年終了になりますけれども、2025年10月31日から12月の21日までの会期ということで、こちらは終了しております。

前回の運協が11月14日の開催でしたので、基本的にはそれ以降に開催されたことについての報告と実施した内容について報告させていただきますけれども、関連企画のほうで、まずギャラリートーク、11月22と12月20日にそれぞれ開催しております。12月20日のほうに比べまして、1回目の11月22日のほうは参加が27人と、非常にギャラリートークの参加人数が多くなっておりますけれども、こちらはウォーキングイベントからの継続参加者を含むということで、こちらのウォーキングイベントにつきましては後のところで改めて御案内があるかと思っておりますけれども、1回目のほうがギャラリートークとしては参加人数が多くなっております。

また、関連企画2以降の内容についての詳細はこの後改めて教育普及のところでも重複して報告させていただくことになると思いますので、「優美なる死骸」ワークショップ、11月30日に開催したということと、それからねんどワークショップ、12月7日に開催したということで、こちら、中村のほうからは日程と概要の報告のみにさせていただきます。

こちらの特別展ですけれども、開催された12月21日までの総入館者数、すみません、入館者数の横のところに「11月14日まで」という以前のところの内容が削除し忘れておりますけれども、こちらに記載しております人数が、こちら総入館者数となっております。

【鉄矢会長】 これ、二期のですか。

【中村学芸員】 二期分の入館者数になっております。

10月31日から12月21日までの総入館者数が1,629人というふうになっておりまして、うち団体というふうについておりますのは、この後改めて御報告いたしますけれども、鑑賞教室で訪れた各小学校の4年生と、それから引率の教員の方々ということになりますので、鑑賞教室絡みで900人強の人数が入ってきているということになります。

それ以外に、特段こちらのほうで報告する内容としましては、こちら、「一般（1期割引）」というふうになっている人数が70人ございます。こちらは、一期のほうに来てくださった方に、一期の間に二期に持ってきていただいたら割引になりますよという割引券、こちらリピーター向けにという形でお渡ししていたんですけれども、これを持って来館してくださったのが70人いらっしゃったということになりますので、こちらの70人のお客様というのは少なくとも一期と二期と通してこちらのモダニズム展を見てくださった方ということになるかと思っておりますので、一定の効果があったのかなと思います。

【鉄矢会長】 第一期の合計は何人だったんですか。前に聞いたと思うけど。

【中村学芸員】 こちらはたしか、記憶の範疇で失礼いたしますけれども、恐らく800人台の後半だったというふうに記憶しております。一期のほうはやはり猛暑の影響があったということで、ちょっと1,000に届いていなかったはずです。

ということで、招待の方もいらっしゃいますので、招待の方の場合はこちらの一期と二期とでどちらも使えますよというDM形式のものを持ってきてくださった方もいらっしゃいましたので、招待の方の中に通期で来て、2回通して来てくださっている方がいらっしゃる可能性もありますけれども、少なくとも100人弱の方が一期と二期と通して来てくださったということになるかと思っております。

開催した特別展、二期「モダニズム、変容」の人数などの報告に関しましては、以上となります。

続きまして、教育普及事業に関する報告に関しましては、永井より報告させていただきます。

【事務局】 それでは、ワークショップについて、私のほうからまずお知らせいたします。

「優美なる死骸」ワークショップ、11月30日の日曜日、こちらの多目的室にて行いました。定員は15名で、小金井市公式L o G oフォームより申込み先着順という形で募集いたしましたところ、参加人数は9名でございました。2名の方が当日キャンセルとなっておりまして、対象は一応どなたでもということで設定させていただいたイベントでございました。小学校低学年の方は、保護者同伴です。

何で知りましたかというアンケートも実施したところ、市報で知ったという方が4名、公式L I N E で知ったという方が1名、知人を通して、お友達を通して知ったという方が2名、当日館内の私が一応作っておいたミニポスターにて知ったよという方が2名で当日参加の、計9名でございました。

続きまして、12月7日の日曜日のねんどワークショップも私が担当させていただいたんですけれど、こちらも多目的室で定員15名の、こちらは当日先着順という形で、L o G o フォームなどは使わなかったんですが、参加人数は一応定員の15名、うち2名は館内ミニポスターを見て面白そうだからということで途中参加でございました。こちらの対象もどなたでもで、一緒でございます。

こちらも何で御存じになりましたかというアンケートを取ったところ、当館のホームページが5名、公式L I N E の方が8名、当日館内にて知ったよという御夫婦が2名との結果でございました。

こちらのほうは、一応簡単ではあるんですけれど、先ほど中村のほうから案内がございましたギャラリートークとウォーキングイベントのスライドと、「優美なる死骸」とねんどワークショップ、あと、もうちょっと後のほうで御紹介する先日2月の14日に行われたシビルマリッジの画像も、そんなにたくさん画像は御用意していないんですけれど、ぜひ雰囲気を感じ取っていただけたらと思います。ちょっと見にくいかもしれないんですけれど、こちら。私は残念ながら参加できなかったんですけれど、とても和気あいあいとした感じが伝わってくるすてきなイベントで、すみません、ネタバレに先になってしまうんですけれど、こちらもウォーキングイベントの、すごい紅葉がとてもきれいな、紅葉の美しい、快晴だったんですね、すばらしく。

【鉄矢会長】 きれいだったという。

【事務局】 はい。青空が広がっている、すばらしいお天気にも恵まれた日に行われたと

のことで、ちょっと画像がばらばらで申し訳ないのですが、11月22日の原田委員のウォーキングイベントの後に、中村のほうが行ったギャラリートークにそのままウォーキングイベントの散策者の方々が流れてきてくださって行われたギャラリートーク、1階展示室が人であふれかえっております。このような感じで、皆さんしげしげと見てくださり、中村の話を楽しく聞いてくださっているのが写真の随所から伝わってまいります。

私が担当した「優美なる死骸」は、シュルレアリスムのイベントなんですけれど、こんな感じで、まずは「優美なる死骸」とは何ですかという説明から、ちょっとここを真つ暗にして15分くらいのスライドショーで、小さい子でも分かるような解説を行わせていただいたんですけど、このイベントに岡本太郎マニアの9歳の男の子が交ざっておりまして、物すごい知識量で岡本太郎に関する展示に命をかけている子で、私なんかよりもシュルレアリスムについて物すごく詳しい子で、勉強させていただいたんですけど。画面の真ん中辺りにいる紺色のトレーナーを着ている小さい子。周りにいる小さい子も「こんな絵って何か意味あるのかな」とかいうつぶやきをして、「意味なんかなくていいんだよ。それがシュルレアリスムだから」と言っているのを聞いて、すごい将来が楽しみなお子さんだなと思ったんですね。

シュルレアリスムのほう、お一人お一人が前の人が書いた状態の文章であったり、ちょうどその後ろにあるんですけど、文章であったり絵であったりということを、前の人が何を書いたか分からない状態で次々に書いていこうという遊びなんですけど、完全に、絶対に前の人が分からないようにこちらに机を置かせていただきまして、私が監視をしながら、ばれないよね、密通、内通してどんな絵を描いたとかなないよねということを見張らせていただきながらこちらで書いていただいて、出来上がった作文がすごく出来がよくて、まず第1弾が「クリスマス、命が尽きた、爆発だ、1年終わる、星の降る夜」というのが、これが大人も子どももごちゃ交ぜになってできたんですけど、自分一人では絶対できないような感じのすごいポエティックな文章でした。これも大人、子ども全部入り交じって書いたんですけど、2作目も「1日は、どんぐりコロリ、捻挫して、歯がぐらついて、今夜はカレー」という、何かバランスが謎によくできている。

文章だったり物語だったり、あと絵も、こちらの後でお時間あるときに鑑賞していただければと思うんですけど、大人も子どもも皆さん絵心あふれる方々が参加して下さって、名前、タイトルが「優美なる死骸」なんていう小難しそうなのがついているものから、皆さんちょっと遠慮して当日9名ということだったんですけど、楽しんでいただ

けたかなと思います。

あとは、続いてねんどワークショップなんですけれど、当館2階にあります中村研一のブロンズ像、頭部、あれ、結構ユニークなブロンズ像だと思っておりまして、このブロンズ像と、あと中村研一の奥さんの富子さんが作った「マラヤの装い」、ちょうどモダニズムの二期展で展示していた、そちらのポスターにもあります「マヤラの装い」、それが気に入っていたので、富子さんが自分でも粘土で作ってみようということで作った、ちょっと小さくて見えないんですけれど、右側の机に置いてある富子さんの作った粘土細工の2つを置いて、これをラウンジで見に行って、記憶だけを頼りにして粘土で再現してみようというお遊戯的なワークショップをさせていただきました。

まず、「マラヤの装い」など、あと中村研一はこういう人だよというような説明を最初にさせていただいた後に、記憶を頼りに作ってみましょうということで、結構、半々に分かれたんですね。富子さんを作る側と、研一の頭を作る側とが。皆さんすごくお上手なんです。記憶だけを頼りにして作られたのに、とても思い思いの研一と富子さんが出来上がっていて、この方は富子さんを作られて、座らせるのって難しいねとおっしゃりながら作ってありました。

ワークショップの次が、先にネタバレになってしまうんですが、先月のシビルマリッジ、これ、1階展示室なんですね。私ちょっと参加できなかったんですけれど、このような感じで行われたようです。すごいですよね。本当にちゃんと教会のような、バージンロードができていう、いつものはけ美ではないみたいなスペシャルな感じがとてもするかなと。

一応スライドによる御報告を終わらせいただきましたところで、鑑賞教室など教育普及事業についても、続けて発表させていただきます。

鑑賞教室、毎年実施させていただいているんですけれど、市内の市立小学校9校全てで実施しました。それで、11月、12月に、第3回目の運営協議会で発表した以外だと、11月28日の本町小学校3クラスと、12月5日、第三小学校の5クラスと、12月12日の緑小学校4クラス、12月16日の前原小学校3クラスと、最後に12月19日、第一小学校4クラスを実施いたしました。

皆さんに、生徒さんに、自由に鑑賞して、自分で必ず何かお気に入りの作品を一つ見つけてみてねと言ったら、最後にほぼ全員から、これがよかった、これがよかったという、いろんな作品、生徒さん一人一人が違う作品を見つけてくれて、それぞれ違う点を見てい

てくれるんだなというところに深く感心いたしました。こちらとても学ばせていただいた、充実した鑑賞教室だったと思います。

小学生を対象としたものではなく、今度は中学校2年生を対象とした職場体験を、11月26日から28日にかけての3日間、東中学校の生徒さんが2名来てくれました。とても情熱的に、それぞれお二人違うタイプの生徒さんなんですけれど、違うタイプ、違う観点から学芸員の仕事とはということを学び取ろうと、とても熱心に私どもの仕事を観察してくださってありました。お礼に頂いた手紙も「とても学ばせていただきました。ありがとうございます」という熱烈な感謝のお手紙を頂き、心が温くなりました。

あとは、授業の一環で、鑑賞のために、これは決まっていたものではないんですけれど、伺ってもいいですかとのことで来館してくださった、12月11日に、第二中学校の特別支援学級の生徒さんと先生の合計14名が来館して、展覧会を楽しんでいかれたというイベントも12月11日にありました。

その他、文化財ワークショップで、先ほど原田委員のウォーキングイベントは発表させていただきましたので、割愛させていただきます。

その他ですと、3ページ目に移らせていただいて、ジュニア特派員というものがございました。このイベントの後にお子様が作成したリポートが、とても高い完成度で、宮地楽器ホールに展示されたとのことは伺っています。

あとは、直近ではないけれど、先月1月23日の金曜日、まなびあい出前講座というのが、午後2時から4時までの2時間ございまして、参加は小金井市観光まちおこし協会・まちなか観光案内人の皆さんとのことで、こちらとても和気あいあいと、小金井とはけの道、はけについてと、あと、はけの森美術館についても、楽しそうにお互いがお話し合って、学びながら、充実したイベントとなっております。

シビルマリッジは、今皆さんに御覧になっていただきましたので、こちらも割愛させていただきます。

【事務局】 続けて、今後の展覧会のほうの説明に入らせていただきます。始まる前にちょっとお話ししたんですけれども、主担当みたいなものは今いない状況で、みんなで進めている展覧会です。

所蔵作品展「春のアトリエー花を描くー」ということで、まだ仮でございます。いつも3月中に開催をしているんですけれども、準備の関係で、今年4月の2日を今予定して、準備を進めております。通常どおり5月の中旬ぐらいまでを想定しております。時間とか

休館日等は未定で、仮のものが入っております。

所蔵作品展になりますので、通常どおり一般の200円、小・中学生100円ということとでやろうと思っています。

概要は、1行なんですけど、こちら、タイトルのとおり「花を描く」ということで、中村研一が描いた花の作品を中心に構成を予定しております。

関連企画としまして、ギャラリートークは、日時等は未定になっております。

ワークショップのほうは永井さんから。

【事務局】 こちらの関連イベントで行わせていただきますワークショップが、一応、講師はマルチアーティストのMU氏という方をお呼びしようと思っております、担当は私、永井でございます。

こちらの多目的室にて、3月28日土曜日、午後1時から3時まで開催を予定しております、こちらは結構MUさんが最近いろいろメディアなどで活躍を始めてきている方なので、一応こちらでも多数の応募が見込まれるのではないかと考えておりますので、こちらでもL o G o フォームより事前申込みで15名を予定しております。

参加費は、一応材料費として200円をおあずかりしようかなと思っております。

持ち物は、エイジングペイントワークショップと申しまして、ペイント加工をしたい缶製品、缶ですね、缶製のものやスマホケースなどがあれば、御持参いただきます。こちらでも人数分の一応缶製のペンケースを用意しております、新品のものを古く、何年も何十年も使い込んだかのようなペイント、目の錯覚も用いるし、技術的な面で古ぼけたものに、使い込んだように偽装するペイントワークショップを予定してございます。

【事務局】 ありがとうございます。

続きましては、最後のページのギャラリーコンサートです。こちら、例年、小金井 宮地楽器ホールと共催で開催しているイベントになりまして、今年も開催を予定しております。

また、中村研一の誕生日を記念した無料開館日につきましても、こちらも実施を予定しております。

所蔵展につきましては、まだ企画段階というところで、未定のことが多くて、あまり御紹介できる部分が少なくて申し訳ございませんが、以上になります。

【鉄矢会長】 ありがとうございます。

では、説明が終わりました。何か質問とか御意見等ありましたら、お願いします。

そのほかはございますでしょうか。

では、その他に入ります。事務局から何かありますか。

【事務局】 何点かございます。

前回の議事録につきまして、今週中にまたメールのほうで皆さんに確認のほうをお願いする予定であります。

あと、今回2年の任期のほうで、今年度の第4回目、今日が最後ということになりました。また来年度から新しい任期のほうになります。今日は原田委員が最後ということで、ぜひちょっと。

【鉄矢会長】 では、原田委員から。

【原田委員】 6年間、公募の委員としてお世話になりました。ありがとうございました。大変、楽しい6年間。会社員時代は3年から5年で転勤していましたので、一つのところに6年間というのは初めてで、たつぷりと。

それで、今まで美術館というのは出かけて行って作品を見て、ああ、いいなとか、それで終わっていたんですが、ここに加わらせていただいて、今日の御報告にもあったように、単なる絵とか展覧会だけでない、物すごい広がりがある。それが、特に地域の美術館というのは地域の文化を下支えしているというか、形づくっていると、特に子どもの教育のところから一生懸命やっておられるというところが非常に心に残りました。まさに地域の美術館の役割というのはこういうことだなと。

それから、6年間で20近く、1年間に3回ぐらい展覧会がありましたっけ、コロナのときを除けば。だから十幾つ展覧会を拝見していて、毎回本当に感心したのは、学芸員さんの活躍というか、とにかく新しい切り口を見つけて、それでもって我々にこの絵の陰にはこういう物語があるんだということを提示してくれるというので、面白かったです。それを全然知らないで見ていたら単なる絵なんですけど、その陰に画家の人生があったり、家族の話があったり、時代があったり、土地があったりということで、無限の切り口があるんだということが分かりまして、大変面白かったです。

これからもいろんな美術館に行くと思いますけど、ここで得たことを生かしていきたいなと思います。これからも応援団を続けますので、よろしくお願いします。ありがとうございました。

【鉄矢会長】 ありがとうございました。

【事務局】 ありがとうございます。

次回の日程をまた決めさせていただきたいんですけれども、できれば金曜日で、5月の17まで展示のほうをやっているので、5月の2週目、3週目あたりの金曜日など、いかがでしょうか。

【鉄矢会長】 では、15日の18時半からでよろしいですか。

【事務局】 ありがとうございます。一旦15日の18時半にさせていただいて、今、次の委員が選考中なので。

【鉄矢会長】 了解です。

【事務局】 決まりましたら、日程を御連絡いたします。

では、以上です。

【鉄矢会長】 ありがとうございます。日程も決まりました。

そのほか、何かありますでしょうか。大丈夫ですか。

では、以上で、はけの森美術館運営協議会を終了します。お疲れさまでした。

ありがとうございました。

—— 了 ——